



岩手県・木戸口先生より

瀬戸 SOLAN 小学校 4 年生の皆さんへ

岩手県久慈市立宇部小学校 木戸口泰平

こんにちは。1 月 12 日はあたたかく迎えてもらいありがとうございました。教師生活を 11 年続けてきましたが、こんなにも目を輝かせて生き生きと学ぶ子どもたちは初めて見ました。

1 日という長い時間一緒に過ごさせてもらいましたが、感動の連続でした。私が特に素敵だと思ったことを 2 つ書きます。

1 つ目は、「人と関わる力」です。

朝、緊張しながら校舎の階段を登り教室に着くと、渡辺先生と挨拶をする前に「おはようございます！」「私は〇〇と言います！」「お名前は何ですか？」と数人の子たちが挨拶をしてくれました。

一瞬で心がほぐれ緊張は一気に吹き飛び、なんて素敵な挨拶ができる子どもたちなんだろうと感動しました。

皆さんから挨拶の大切を改めて教わったような気がしています。モーニングミーティングでは、「ゆいです。新聞を作っています！」「たいせいです。巨人のたいせいと覚えてください！」「そうたろうです。野球が好きです！」などとみんな笑顔で自己紹介してくれました。

ゆいさんの新聞は私の学級の子どもたちにも見せましたよ!!「本当に 4 年生が書いたの？すげ～!!作ってみたい!!」と、子どもたちが言っていました。

とにかく、皆さんの真っ直ぐ目を見て自己紹介をする姿に、努力や様々な

経験を積み重ねてきたことによる自分への自信を感じました。あんな自己紹介は大人でも中々できません。

他にも、授業中の対話でもパッと隣の友達に話しかけたり、道徳で参観している先生方に次々とインタビューしたりするなど、人との関わりを楽しみながら学んでいる姿が印象的でした。

私は、いつでも誰とでも関われる力は大人になっても大切な力だと思っていて、私の教室でも一番と言えるくらい大切にしています。きっとこれから生きていく中で様々な人に出会うと思いますが、皆さんならきっと誰とでもあたたかい関係を築けるようになると思います。私も皆さんの姿を目標に、学級の子どもたちと素敵なクラスを作っていきます。

2つ目は「やる気の姿勢」です。

皆さんは普通ならやる気がでないような学習の基礎基本となる音読、辞書引き、筆算などをものすごいやる気をもって取り組んでいました。その姿に「なんでこんなにやる気があるの？」と圧倒されました。

皆さんを見ているとなんと言うか、「心の勢い」みたいなものを感じました。最後までそのやる気の火が消えることなく、競い合うように熱心に学んでいたことに驚かされました。

この手紙を書いている思い出したのですが、愛知から岩手に帰る道中ラジオで、「突き詰めていくと生きていく上で大切なことは『熱心さ』と『優しさ』の2つになる」という話を聴きました。

聴いていて真っ先に皆さんの熱心に学ぶ姿が思い浮かびました。皆さんは「熱心さ」についてすでに素晴らしいものを持っていると思います。その熱量でみんなで切磋琢磨し、自分をぐんぐん成長させ、将来の可能性を広げていってくださいね。皆さんのこれからの活躍がとっても楽しみです。

4年生の教室で1日過ごし、たくさんの学びと刺激があり本当に幸せな時間を過ごさせてもらいました。私の教師人生の中で自分を変えてくれる出会いになったことは間違いありません。心から感謝しています。本当にありがとうございました。

皆さんの活躍を遠く岩手の地からずっと応援しています！まだまだ寒い日が続くと思います。体に気をつけて元気で頑張ってください。

木戸口先生からは、もう一通、私に向けてのお便りも貰いました。

こちらは、プロ仕様の教師としてのお便りですが、みんなの勉強にもなると思うので、こちらも紹介します。

少しでも理解できた貴方は、相当大人であると言えるでしょう。

渡辺学級を1日参観して学んだこと

R5.1.13 木戸口 泰平

1月12日(金)に渡辺道治先生の担任する4年1組を1日参観した。学校の業務以外にも執筆や講演などで多忙な中、快く受け入れていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

渡辺学級で見て感じたこと、放課後に他の参観者や渡辺先生と話したことを元に、特に自分の課題意識がある3つの視点に絞って気付きや学びをまとめていく。

① 褒める

1.言葉かけ

「〇〇君は第4クォーターに入ってから腰骨が曲がったことがない」「〇〇さんは速いけど丁寧さが落ちていない」などといった褒め言葉が授業中に何度も発せられていた。「すごいね」「素晴らしい」こういった短い言葉で力強く褒めることも大切だと思う。しかし点ではなく線で子どもの成長を捉えた褒め言葉をかけることは、褒められた子どもたちにとって先生は自分のことをよく見てくれているという安心感に繋がるのだろう。これは4月から子どものことをよく見ていて、自分の中に様々な言葉をストックしていなければできないことである。渡辺先生が何年もかけて書き溜めてきた褒め言葉のストックは1000を超えるという。4月、子どもたちの心のコップを上向きにするために渡辺先生は今の10倍褒めていたそうだ。奈良県の天理小学校で初任者の時に渡辺先生と学年を組んでいたという先生もいらして話したが、当時は10秒に1回褒めているのではないと思うくらいに子どもたちを褒めていたと言っていた。聞くと4年1組は昨年度は授業が成り立たない程、厳しい学級だったというが全くそうは感じなかった。それぞれの子ども

もが様々な特性をもっているのは感じたものの、絶対的な先生への信頼感と安心感の元で圧倒的なやる気の姿勢で学んでいた。褒め言葉をかけるという教師なら誰しもがやっていることを、1年の見通しもち、子どもたち一人ひとりに合った言葉を選び、その子が欲しいとタイミングで渡すというかなり意識的にそして計画的に積み重ねてきたからこそ。子どもたちのあの姿があったのだと思う。

2.表情と目線

「褒める」というのは言葉だけではない。渡辺先生は基本的に上機嫌と笑顔で子どもと接していた。そして全体に話している時にも目線は子ども一人ひとりとしっかりと合わせているように見えた。子どもの発言を笑顔でおもしろがったり、予想だにしない発言に目を見開いて驚いたりするなど表情豊かに授業をしていた。放課後に授業の振り返りをしている中で、渡辺先生から「見ているだけで褒めることになる」「目線でしっかり見ているという合図を送ることだけでも承認という褒めになる」という話があった。温かい表情と目で視線を送ることだけでも子どもたちにとっては先生に認められたという嬉しい気持ちになるのだと気付くことができた。渡辺先生は放課後の振り返りで参観者10人と話しているのに、何故か自分に向かって話してくれているという気持ちになった。そしてそれは私だけではなく他の参観者も感じたそうだ。全体に話しながらも、一人ひとりに目線を止めて話すことが「承認」というプレゼントを子どもたちに送っていることになるのだということを体験を通して学ぶことができた。

「人は誰しも自分を認めてくれる人に信頼を置く」という言葉を聞いたことがある。きっと渡辺先生は4月から様々な「褒め」で子どもたちに「承認」というプレゼントをまずは自分から渡し、そして温かい関りを重ねて信頼関係を結んできたんだと想像ができた。そうでなければ厳しい状況の学級の子どもたちがあのよう生き生きと目を輝かせて学ぶことはないと思う。教師は得てして自分がしてもらいたいことを子どもたちに要求してばかりで子どもが欲しいと思っている承認や愛情に思いを馳せることができず、関係にズレを生じさせることがある。どれだけ正しいことや美しいことを言っても信頼していない人間の言葉は心に届かない。何を言われるかよりも誰に言われるかが大切なんだと気付くことができた。

これからは「褒める」ということにもっと意識的になり、以下の目標をもって努力を積んでいきたい。

- | |
|--|
| <p>①常に自分自身が子どもにどう映っているのかを考え、信頼に足る大人になるよう、褒め認めることを基本として子どもと関わる。</p> <p>① 笑顔と上機嫌を意識して子どもの前に立ち、一人ひとりに視線を止めて話す。</p> <p>② 褒め言葉のバリエーションを増やし、意識して使う努力をする。</p> |
|--|

②子どもの学びやすさを考えた授業デザイン

1. 仕組み作り

1時間目は様々な教科の基礎基本を学ぶモジュール学習を参観した。筆算、詩の暗唱、地名当て、辞書引き、漢字スキル、教科書の音読などがすごいスピードで次々に行われていたが、次に何をすれば良いのか戸惑う子やパニックを起こしている子どもがいなかった。渡辺先生は中位のスピードで進めていたと言っていたが自分には超高速に見えた。きっと4月から子どもたちの成長の度合いを見て活動の仕方

を丁寧に教えながら少しずつレベルを上げ、時には変化をつけて子どもたちを飽きさせないように何度も活動を繰り返してきたのだと思う。普通に考えたらつまらないと思うような活動をもものすごく楽しそうに行っている姿に本当に驚いた。活動の流れを固定することでアスペルガー傾向の子どもたちが目立つことなく安心して取り組むことができるというのが、それにしてもかなりのスピード感の中で普通に学んでいたのが驚いた。

また、テンポよく進めながらも、活動をかぶせ、早い子と遅い子の時間差をスムーズに回収していくように授業が進められていた。子どもたち一人ひとりの学習スピードがあるはずなのに、学校は全員が揃って物事を進めることが良いとされ、評価されることが少なからずあると感じている。私は、今まで全員が同じスピードを進めることを求めがちだった。遅い子を叱り、早い子を待たせるという場面を何度も作ってきた。渡辺先生の授業でどの子も伸び伸びと学習に取り組んでいる様子を見ながら大きく反省した。

2. 「静」と「動」のメリハリ

授業では活動をたくさん入れることで子どもたちが体を動かしながら学んでいた。授業開始5分の中で書く、話す、音読する、手をあげる、立つなどの活動がたくさん組み込まれていた。また、文章を書く時には「立ってやってもいいよ」と指示し、後ろの棚で立ちながら書いている子どもたちも数人いた。じっと座っていることが苦手な多動傾向の子どもたちが動きを入れることでドーパミンが脳から出てやる気や集中力が戻るとのことだった。合法的に立ち歩いたり声を出したりして、熱を放出した子どもたちは、静かに次の活動をする事ができていた。「静」と「動」のメリハリをつけて、やる気の火を消すことなく最後まで集中して学んでいる姿を目の当たりにして、教師の授業の組み立て方次第でこうも変わるのかととて

も驚いた。動きを伴いながら学ぶことは配慮が必要な子を含め、全ての子どもたちにとって有益な意味があるのだということが改めて分かった。

学校では「静」が求められる場面が多々ある。椅子にじっと座り、静かに学んでいれば「落ち着いたクラス」と評価される。そうであるがため、教師は「静かにしなさい」「動きません」そんな言葉を子どもたちにかける。渡辺先生はざわついた場面でも、1人の子のつぶやきを拾い、スパッと教室が静まり返る。マイナスの指摘は1回もない。教師は子どもたちが静かにじっと座っていれば教えやすいし安心する。確かに自分1人ではなく他者がいて共に学んでいるから、他者に迷惑をかけないために静かに座って学ぶことは大切であると思う。もちろん渡辺先生の授業にも「静」の時間はしっかりとあった。しかし、渡辺先生の授業で動きを伴いながら能動的に学ぶ子どもたちを見て、教師の安心はどこにあるのだろうと考えた。静かに座っていれば安心なのか。きっとそれは違うのだと思う。教師の教えやすさを重視して子どもの学びやすさを考えていない場面が多分にあるのではないかと反省した、子どもの学びやすさを考えて授業を組み立てていくことの重要性を感じた。

これからは、子どもたちの学びやすさを考えた授業づくりを意識して以下のことに取り組んでいく。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">①活動を固定し、子どもたちが安心して取り組める環境を作る。②活動をかぶせて子どもの活動の時間差を回収するような授業づくりを意識する。③動きを伴わせる活動を仕組むことで「静」と「動」のメリハリを作り、子どもたちが学びやすい環境作りに努める。 |
|---|

③. 話し方

1. 言葉を削る

詩文を音読させる際に「枕草子」「月の異名」などと名前を言うだけで子どもたちは音読を始める。そして「5個書けたら立って一つ発表します。」「仕事って何なのか1行で書きます。」このように短く指示を出していた。また、話す際によく言いがちな「え〜」などの余計な事は一切言わない。きっと1文字レベルで言葉を削っているのではないかと思った。日々の授業で自分が発する言葉を意識し、その話し方はどうだったのかを振り返り、改善するというサイクルを何度も回してこななければならない話し方だと感じた。

2. テンポと抑揚

渡辺先生は基本的に早口で声のトーンは高めだった。また、声の調子を上げたり下げたり強めたり弱めたりと、グッと引き込まれるような話し方をしていた。道徳の時間にはPPを使用しながら授業を進めていて、補足説明などの子どもたちに語り聞かせる場面も何度かあったが、どの子も顔をあげてもっと聞きたいというような表情で聞いているように見えた。コンテンツ自体が知的好奇心を刺激するおもしろい作りになっていたこともあるが、渡辺先生のテンポの良い抑揚のある話し方の影響も大きいと感じた。参観から帰ってきてから渡辺先生の授業と自分の授業を見比べてみた。話し方のテンポ、声の張り、抑揚など全てが大きく違っていた。話し方一つで子どもたちの集中を途切れさせないことができ、聞いている人を引き込むことができるのだということを目の当たりにした。

教師は話す仕事といってもいいくらい1日の中で子どもたちに向けてたくさん言葉を発している。私はテンポよく抑揚をつけて話すことに苦手意識がありながらも、「話す」ということについて意識的に練習を積んでこなかった。これからは子どもに届く話し方ができるよう

になるために以下のことに意識的に取り組んでいきたいと思う。

- ①指示・発問・説明の言葉を端的にそして明確にする。
- ②話す際の声のトーンやテンポ、抑揚に気をつけて話す。

渡辺先生を初め、瀬戸 SOLAN 小学校の先生方、4年1組の子どもたちには心から感謝したい。今回、私を含めて北海道、栃木、奈良、岡山から総勢10名の参観者があり、全員が1日学級を参観した。新学期がスタートしたばかりの忙しい中で、ものすごい負担を感じるような依頼だったと思う。それにも関わらず、温かく迎え入れていただいた。渡辺先生は教師としてだけでなく、人としての在り方が本当に素敵だった。授業だけではなく、人との関わり方や生き方など本当にたくさん学びがあった。

今回の学びを受けて、まずは自分のできなさや向き合い、改善するようにしていきたいと思う。当たり前のことだが、教室で漫然と過ごすのではなく、日々研鑽を積む覚悟で教室で過ごし、教師としての地力を磨いていきたい。そして学級、学校の子どもたちに還元していきたいと思う。また、この貴重な学びを同僚の先生方やこれから出会う先生方に広げていきたい。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcipcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

